

令和4年度 第1回 会津若松市中小企業・小規模企業 未来会議 要旨

日時：令和4年6月24日（金）14：00～16：00

場所：生涯学習総合センター（會津稽古堂）研修室5

1 開会

2 協議

会津大学短期大学部 木谷准教授を座長、観光商工部商工課 田沼を司会進行とする

【情報共有】

（地域の景況感について）

- ・ロシア・ウクライナ情勢による取引先の仕入れへの影響について、多数の事業者が原材料や商品の「仕入数量の確保難」、「仕入価格の高騰」の影響を受けている状況。仕入数量の確保面では、「木造建築工事」、「木材卸」、「建築工事」等の業種での影響が目立つ。仕入価格面では、「木造建築工事」、「燃料小売」、「飲食店」等の業種での影響が目立つ。
- ・受注自体はあるが、仕入難により納品まで時間がかかってしまい、販売価格が高くなってしまう。
- ・肥料などの農業資材の中には、ロシアからしか調達できないものもあり、仕入れ価格が2倍以上になっているものもある。
- ・製造業は国際的な物流の混乱により原材料供給の停滞、資材価格のコスト増が続く。
- ・建設業は燃料価格上昇のコスト増に加え、建設資材や設備機器の納期遅れ・欠品により工期が遅れ業績悪化が継続している。
- ・行動制限のないゴールデンウィークで人の流れは回復に向かい、外食や宿泊関連のサービス業、土産品販売等の小売業で業況が上向き。
- ・イベントやコンサート業界に関しては、過去2年と比較してかなり動き出しは始めている。ただし、コンサートやフェスに関しては、チケットが思うように売れない状況がある。→開催地やチケット購入を考えている方の住んでいる地域での感染状況、職種的な問題でまだまだ抵抗がある方が多いのではないかと予測している。
- ・この2年間で、音響・照明・舞台など関係人員が減っているため、どの現場も人手不足が目につく。（現地で補助人員手配が増えている。）
- ・県や市町村といった行政でのイベントも、従来はオンラインでの開催企画が多かったが、今年はリアルでのイベント実施に向けた動きが多い。
- ・飲食業界に関しては、観光客を中心に、例年よりも飲食店の利用者（特に夜のアルコールを含むもの）の利用は増えてきている様子。ただ、地元の方の出はまだまだといった印象。
- ・観光農園に外国人旅行客の来場もあった。

・新型コロナウイルスの経営への影響について、影響が続いている企業は2ヵ月連続で減少しており、売上減少の深刻な影響を受けていた企業も回復傾向にある。

(支援策について)

・先進的省エネルギー投資促進支援事業費補助金に応募を予定している。
・コロナ関連の保険に加入していたため、消毒費用や売り上げが補償された。
・国の事業復活支援金申請が6月17日で終了、約600件の事前確認を行った。
・事業復活支援金について、事前確認登録件数は約220件。一時・月次支援金(※)の事前確認件数26件を考慮すると、多くの事業者で売上が落ち込んでおり厳しい経営環境が続いていたと思われる。

※一時・月次支援金については、首都圏の事業者との取引が必要など、業種が限定された。

・事業復活支援金は、約90件の問い合わせがあり84件採択となった。
・事業再構築補助金について、第5回目の採択結果が公表され、確認書を発行した8件の内、4件(採択率50%)が採択となった。尚、全国での採択率約46%程度
・共済保険の支給で、コロナの入院見舞金の申請が多かった。自宅待機やホテル療養でも支給されることを知らなかった加入者がたくさんいた。
・融資の問合せ・申込は少なく、融資した資金、支援金や一時金などで運転できている事業所が多い。設備機器の入荷・納車が未定(半年~1年待ち)のため、借入実行を延ばす事業所もある。

(コアメンバー、所属団体での取り組み)

・動画サイトでの会員企業や会津地域のPR活動について、昨年度は再生数数が伸び悩んだため、再生時間を短くし、より視聴者に届きやすい方法で行う。視聴から実際の訪問に繋げていきたい。

・商工会議所青年部では、ジュニアエコノミーカレッジを20日間の日程で開催予定。
・同友会では、市内高校に協力をいただき、地域課題や事業課題を一緒に考えていこうという取り組みを行う。また政策委員会では、県への提言書作成を行っている。
・協働・男女参画室と共同で行った、「働き女子のためのライフデザイン講座」が終了し、その後も続けていきたいとのことで、2回目の夜会が行われた。家庭や地域・職場などでのモヤモヤなどについて、意見交換を行い、今後は女性の自立について意見をもちあい意見交換をする予定。

・各団体でもDX、ICT推進のための動きが活発化してきているように感じる。
・中高生の職場体験やキャリア教育などに対する需要も増えてきており、それに伴い、同友会、会議所青年部、青年会議所の3団体でもアンケートの依頼や地域活性化に向けた学生の提言をしたいといった声が聞こえてくるようになった。
・青年会議所の活動としては、コロナ禍という状況下の中では、今年が一番積極的に事業

を展開できている（わんぱく相撲の開催、地域の魅力を考える講演およびワークショップの開催、JC カップ（サッカー大会）の開催、子どもまつりの開催協力）

・同友会、会議所青年部、青年会議所の3団体で、あかべこマルシェ（飲食店応援のためのお弁当のテイクアウト事業）の開催に協力した。今年は例年よりも販売数が少なかった。テイクアウトが一般化したのか、行動制限がなくなり、通常通りの飲食店利用に抵抗がなくなってきたからなのかわからないが、ウィズコロナにおける需要が変わってきていると感じる。

・感染症など様々な外的要因はあるが、依頼や相談を断らず様々な注文に対応することで販路・取引先を維持している。感染症により減少した社会活動（冠婚葬祭など）もあるが、その分オンラインでの需要など、新たな販路も生まれている。

・あいづ商工会は、3年ぶりにホテル祭りを開催。アルコールの提供はせず、1日のみ（通常2日間）での開催であったが、約13,000人の来場があり無事成功した。

・インボイスについての事業者の理解促進を図っていく必要があり、講習会を検討している。

・消費喚起対策としてプレミアム商品券を実施予定、今年は発行総額10億円に増額。

・市では経済活性化策として、「呑んで運試し！会津SAKEガチャプロジェクト」を実施予定。酒造業界、飲食店、運輸業ほか幅広い関連産業への支援を図る。

【勉強会・交流会について】

前年度までの検討経過をもとに、事務局にて案を作成（別紙）。了承をいただき広報の協力を依頼。

（コアメンバーより）

・VR活用を研究している学生がいるので参加させたい。

【葵ゼミとの連携について】

今年度の葵ゼミとの連携方法について、事務局より説明。連携を行った3年間の総括を行い、次年度以降の関わり方を検討していくこととする。

令和4年度
会津若松市中小企業・小規模企業未来会議 コアメンバー及び出席者名簿

R4.6月現在

所属・企業名		役職	氏名（敬称略）	備考	第1回 出欠
会津大学短期大学部 産業情報学科		准教授	木谷 耕平		出
中小・小規模企業者	(株) cluster	代表取締役	齋藤 英宣	会津若松商工会議所 推薦	出
	古川プラスチック	代表	古川 孝治	あいづ商工会 推薦	出
	(株) 三義漆器店	代表取締役	曾根 佳弘	県中小企業家同友会 会津支部 推薦	欠
	(株) アクトイン	取締役	松浦 久美	県中小企業家同友会 会津支部 政策委員長	出
	TAKLAM	代表	遠藤 和輝	公益財団法人 会津青年会議所 推薦	出
支援機関	会津若松商工会議所	企業振興課 課長	吉田 浩		出
	あいづ商工会	事務局長	白川 浩二		出
	福島県中小企業団体中央会 会津事務所	所長	堀 和弘		欠
	会津信用金庫	本店営業部長	渡部 勝敏		欠
	会津商工信用組合	融資部地域支援課 課長補佐	藤巻 正義		出
会津若松市観光商工部商工課		課長	櫻井 恭子		出